

## 国立競技場記念作品等 移設工事を実施 ①

### 国立競技場の設備・物品等が全国各地へ ②

国立競技場メモリアルグッズ発売中！

平成25年度に実施した国立競技場施設整備工事について

### スポーツ祭り2014を開催！ ③

スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート



# 国立競技場 記念作品等 移設工事を実施

国立競技場は1964年東京オリンピックを前に各企業の寄付協力を得て、施設や敷地内に芸術作品が設置されました。また、東京オリンピック優勝者銘盤などの各種国際大会優勝者銘盤や織田ポール等、歴史を語るにふさわしい記念碑も設置されました。

半世紀にわたり数々のスポーツ大会の歴史とともに歩んできた記念作品等も、国立競技場の建替えに伴い、JSCの他の施設に移設したり、一時保管して最終保存等について検討することとなります。

記念作品等の移設工事は、「銅像・銘盤・記念碑等」と「壁画」に分けて実施され、銅像等は台座から取り外して11月末までに国立スポーツ科学センター（JISS）や国立代々木競技場への移設を完了しました。

「壁画」については、分割して躯体から切り出し一時保管をします。現在も工事は実施中であり、年度内に完了する予定です。

今回の移設工事を進める中、芸術作品を取り扱うということで、取り外し・搬送・設置等一連の作業においては施工方法の重要性かつ慎重な取り扱いが求められます。これまでの現場で経験したことのない緊張感の中、工事を遂行し、無事完了することを目指します。

## ■ 移設工事の様子



東京オリンピック優勝者銘盤の取り外し（10月7日）



出陣学徒の碑の移設先（秩父宮ラグビー場敷地内）での設置（10月17日）



メインスタンド壁画（野見宿禰像）の取り外し（11月5日）

## 国立競技場から聖火台取り外される

### そして、石巻市へ

国立競技場記念作品等移設工事の一環として、10月10日（金）聖火台の取り外しを行いました。

聖火台は、東日本大震災からの復興のシンボルとなることを願い、宮城県石巻市へ貸与させていただくことになりました。

1964年東京オリンピック開会式が行われた同日に、56年間の長きに渡る役目に敬意を表し、次の地へ送り出しました。

# 国立競技場の設備・物品等が全国各地へ

国立競技場の建替えに伴い不用となる設備等のうち再利用が可能なものについて、譲渡先の公募を4月～5月にかけて行い、応募いただいた12の地方公共団体に譲渡が決定いたしました。

『SAYONARA国立競技場FINAL “FOR THE FUTURE”』ファイナルセレモニー（5月31日開催）で、譲渡先代表として岩手県北上市へ目録の贈呈式を行いました。

また、6月～7月にかけて譲渡設備等の取り外し作業が行われ、譲渡先では国民体育大会が行われる競技場に国立競技場のスタンド座席が設置されたり、来場者が見られるように施設内に展示されているとのこと。

国立競技場のレガシーが様々なところへ引き継がれ、活用されることは嬉しいことです。多くの方の心に残る国立競技場であり続けたいと思います。

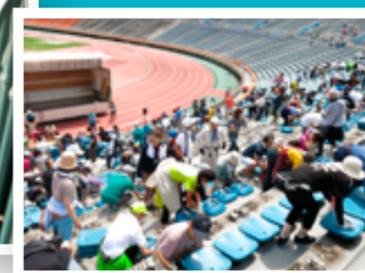
## ..... 譲渡先一覧 .....

No.	申請者	設備・物品
1	岩手県北上市	スタンド座席
2	福島県伊達市	スタンド座席、パイプ柵
3	千葉県大多喜町	スタンド座席、プラ製テーブル、プラ製イス、ゴミ箱、プラ柵
4	千葉県鴨川市	スタンド座席、ソファセット（テーブル、イス）、ゴミ箱
5	千葉県南房総市	スタンド座席、ゴミ箱
6	東京都江東区	サッカー用ベンチ一式（選手用、審判用）
7	東京都新宿区	スタンド座席、プラ製テーブル、プラ製イス
8	東京都町田市	スタンド座席、ソファセット（テーブル、イス）、ゴミ箱、プラ製テーブル、プラ製イス
9	神奈川県平塚市	スタンド座席
10	静岡県裾野市	スタンド座席
11	長野県駒ヶ根市	プラ製テーブル、プラ製イス
12	奈良県三宅町	ソファセット（テーブル、イス）、ゴミ箱

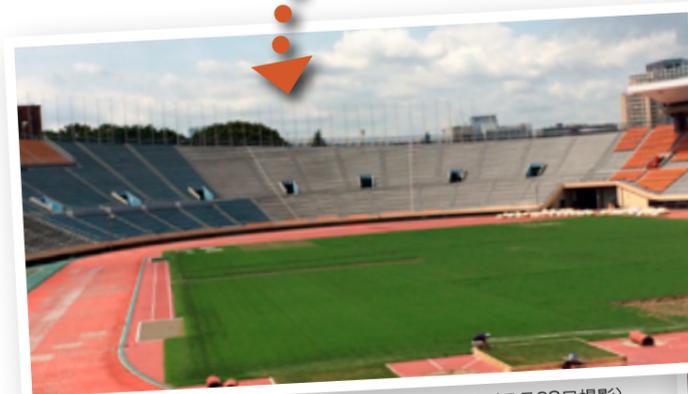
## 取り外し作業の様子



ロイヤルシート取り外し（6月17日静岡県裾野市）



座席取り外し（6月29日岩手県北上市）  
北上市関係者約600名のボランティアで作業が行われた



座席が取り外されたスタンド。グレーの部分が撤去部分（7月28日撮影）

## 千葉県南房総市千倉総合運動公園

テニスコート

野球場



再利用された国立競技場座席（千葉県南房総市より写真提供）



# 国立競技場 メモリアルグッズ

**発売中!**

国立競技場の設備・備品等については、「メモリアルグッズ」として一般販売も行っていきます。

12月末までの限定販売です。  
ぜひ特設サイトにアクセスを!

※一部完売の商品もございますのでご注意ください。

- [SAYONARA国立競技場FINAL “FOR THE FUTURE” MEMORIAL GOODS] (チケットぴあ)

スタンド座席、芝生、年代モノの用器具や表彰台、選手更衣室のベンチなどを販売中!!



専用URL : <http://pia.jp/t/sayonaragoods/>

- 「国立メモリアルグッズ事務局」(日刊スポーツ新聞社内)



トラックのウレタンを使用したメモリアルプレート、キーホルダーなどを販売中!!

専用URL : <http://olahraga.jp/>

# スポーツ祭り 2014

を開催!

10月13日(祝・月)、「[体育の日]中央記念行事スポーツ祭り2014」が、味の素フィールド西が丘(味フィ西)、国立スポーツ科学センター(JISS)、味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)などで今年も行われました。

当日は台風19号が日本列島を直撃するとの予報もあり開催が危ぶまれていたところでしたが、多少の雨はあったものの無事に開催。延べ12,000人のスポーツファンが、オリンピックやパラリンピアンとともに各種イベントに参加しました。

味フィ西で実施した開会式では、下村博文文部科学大臣が開会を宣言し、オリンピック・パラリンピアンによる主催団体旗の入場、松田丈志選手(水泳/競泳)と太田涉子氏(スキー/クロスカントリー)による聖火台への「**スポーツ祭りの火**」の点火が行われました。

その後は、JISSトレーニング体育館指導員による「スポーツ祭り体操」。田中光氏(体操)とともに、工夫を凝らしたオリジナル準備体操を、子どもも大人も楽しみました。



「スポーツ祭りの火」点火

## 平成25年度に実施した国立競技場施設整備工事について

国立競技場施設整備課

日本スポーツ振興センターは、国立競技場施設整備計画を5か年にて計画し、継続して実施しています。

平成25年度は、平成24年度補正予算として3件、平成25年度予算の工事1件の計4件を実施しました。

特に国立代々木競技場では、3工事の施工時期が同じであり、

工事施工場所が干渉することから、施工者だけでなく工事を監督する私ども職員も、工事間調整など忙しい時期を過ごしました。

工事完成からほぼ半年が経過しましたが、第一体育館では施設利用者トイレがきれいになったことや、利用諸室が増えたことなど、ご好評をいただいています。

分類	工事件名	工事概要	主な改修工事内容
平成24年度補正予算工事	国立代々木競技場電力(低圧)幹線設備改修工事	第一、第二体育館各所に設置されている手元配電盤までの低圧幹線ケーブルについて、建設当初から使用し、経年劣化による不具合が発生。イベント開催時等で電源故障発生による問題が発生しないよう設備を更新するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化した低圧幹線ケーブルの更新等工事</li> <li>第一体育館ピット内などの劣化したケーブルラックやダクト類の更新工事</li> </ul>
	国立代々木競技場内部改修及び環境整備その他工事	施設の老朽化等により生じた食堂等空調機の故障、第一体育館アリーナ便所の汚臭発生、給湯配管の劣化による熱効率の低下など支障を来しているため、安全性の確保と利便性向上のため、環境整備工事を実施するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>メインプール用濾過設備跡地を諸室に模様替える工事</li> <li>大型シャッター7枚の更新工事</li> <li>中庭出入口(テンパーガラス)等改修工事</li> <li>食堂・カフェテリア等空調機の取替工事</li> <li>駐車場、車通路アスファルト舗装工事</li> <li>アリーナ便所改修工事</li> <li>給湯設備更新工事</li> </ul>
秩父宮ラグビー場北スタンド改修及びその他工事/前号(Vol.603)にて報告済み			
平成25年度予算工事	国立代々木競技場室内水泳場濾過設備改修その他工事	国立代々木競技場室内水泳場の濾過機及び空調機等の機械設備は、平成6年度の更新以来濾過材や設備機器の交換・整備を行いながら維持してきたが、老朽化が著しいため設備の更新を実施するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>水泳場機械室内の濾過機設備の更新、及び付属の制御機器、装置の更新</li> <li>オーバーフロー配管及び水補給用水槽設備の更新</li> <li>プール水循環ポンプの更新、及び水温除温(冷却)設備の新設</li> <li>暖房用空調機の更新、及び空調機空気循環排気用ファン更新</li> <li>濾過機室内換気設備更新及び水泳場天井内換気設備の更新</li> </ul>



イベント最多の約1,600人が参加した「**アスリートふれあいジョギング**」では、周辺の道路約1.8キロをオリンピック・パラリンピアンと一緒に楽しく走りました。また、味フィ西での「アスリートふれあい大運動会」では、整備された天然芝の上で、大玉転がしやフラフープ競争など、5チームに分かれ得点を競い合いました。

アスリートふれあいジョギング



キッズ・スポーツ科学ランド(全身反応時間の測定)

JISSの体力科学実験室で行った「**キッズ・スポーツ科学ランド**」では、筋肉を画像化したり、垂直跳びや全身反応時間を測定したりするなど、普段トップアスリートが実際に行っている科学的測定が体験できる企画を実施しました。



親子でアスリート食体験

JISS内のレストランR<sup>3</sup>(アールキューブ)で企画した「**親子でアスリート食体験**」には、28組56名の親子が参加。アスリートが平日頃利用している栄養指導食堂で提供されたメニューを4名のオリンピックと一緒に食べながら、栄養バランスの大切さや海外で食事をとる際の工夫など、様々な体験談を参加者は真剣に聞いていました。

# スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート

## 第2回目

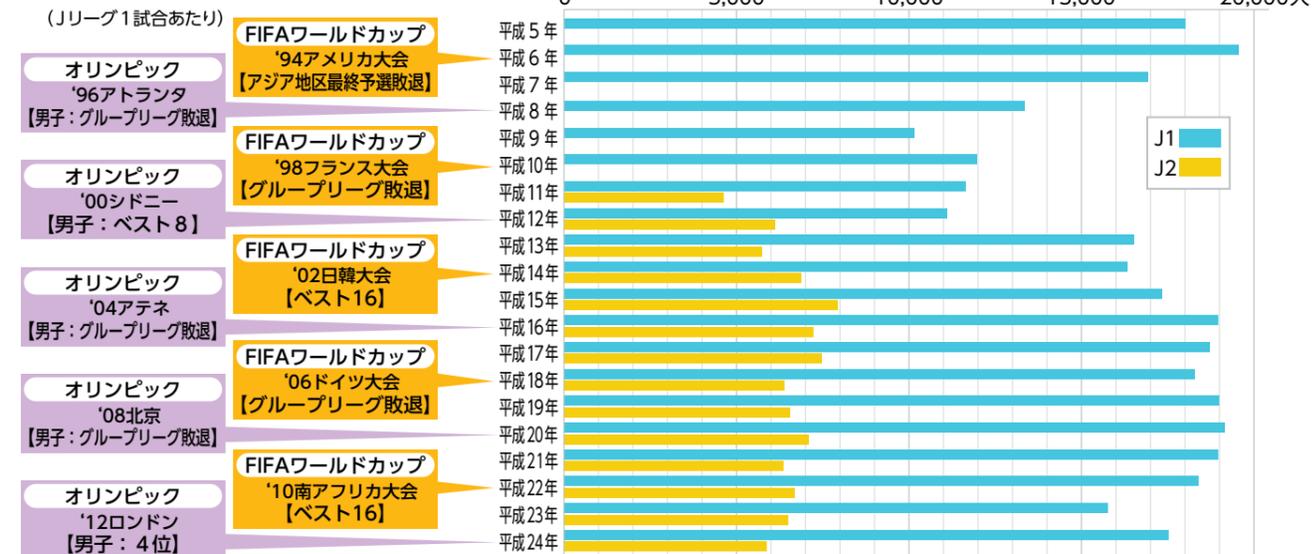
国立競技場事業課

国立競技場では、平成24年を「Jリーグ開幕」から20年、「2002FIFAワールドカップ(日韓共催)」から10年という、日本サッカー界における節目の年と位置付け、2002FIFAワールドカップ開催会場を対象とし、右のテーマに基づく調査研究を行いました。

スタジアムの変遷をたどることで、施設利用者、観客、地域社会等から求められるスポーツ施設のあり方を探り、またその結果を施設関係者・スポーツ関係者に提供することによって、施設改修や大規模スポーツ大会時の参考資料となるようにまとめました。

調査概要	
■テーマ	「Jリーグ開幕」及び「2002FIFAワールドカップ開催」からのスタジアムにおけるソフト面・ハード面の変遷を調査し、10年・20年の記録としてまとめる。
■期間	平成24年11月～平成25年3月
■対象	大分銀行ドーム／ノエビアスタジアム神戸／ヤンマースタジアム長居／エコパスタジアム／デンカビッグスワンスタジアム／日産スタジアム／埼玉スタジアム2002／茨城県立カシマサッカースタジアム／ひとめばれスタジアム宮城／札幌ドーム ※本調査で記載のスタジアム呼称等に関しては、平成26年10月時点での呼称を表記しております。
■方法	アンケート及びヒアリング
■調査報告	本誌へ掲載 (各回2スタジアム、計5回)

### 年間入場者平均の推移



- オリンピック '96アトランタ 【男子：グループリーグ敗退】
- オリンピック '00シドニー 【男子：ベスト8】
- オリンピック '04アテネ 【男子：グループリーグ敗退】
- オリンピック '08北京 【男子：グループリーグ敗退】
- オリンピック '12ロンドン 【男子：4位】

- FIFAワールドカップ '94アメリカ大会 【アジア地区最終予選敗退】
- FIFAワールドカップ '98フランス大会 【グループリーグ敗退】
- FIFAワールドカップ '02日韓大会 【ベスト16】
- FIFAワールドカップ '06ドイツ大会 【グループリーグ敗退】
- FIFAワールドカップ '10南アフリカ大会 【ベスト16】



## サッカー界の変遷

まず、スタジアムの変遷をたどる上で重要な背景となる日本サッカー界の歴史について調査しました。右表は、過去24年間の日本サッカー界の歴史について主な出来事、トピックス等を年表にまとめたものです。

また、右上のグラフは、Jリーグ開幕からの年間入場者平均の推移を示したもので、人気の移り変わりを示しています。

これらの背景を踏まえた上で、各スタジアムの変遷について調査を行いました。

写真提供：日刊スポーツ新聞社



平成14年6月30日  
2002FIFAワールドカップ開幕セレモニー

	主な出来事	トピックス	Jリーグ以外の大規模大会
平成元年度～平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成元年 JFAが「プロリーグ準備検討委員会」設置。3年後にプロリーグ発足を目標とした。2002FIFAワールドカップ開催候補の意思表示、招致活動開始</li> <li>平成3年11月 社団法人日本プロサッカーリーグが正式に発足</li> <li>平成4年5月 Jリーグプレ開幕戦として第1回ヤマザキナビスコカップ開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成元年 Jリーグは、理念・活動方針として【日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進/豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与/国際社会における交流及び親善への貢献】を掲げた。</li> <li>平成4年 天皇杯はJリーグ所属チームおよび9地域代表の全32チームに出場権が与えられた。</li> </ul>	
平成5年度～平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。プロサッカー初のリーグ戦スタート(10クラブ)</li> <li>平成5年 FIFAワールドカップアメリカ大会 アジア地区最終予選敗退(ドーハの悲劇)</li> <li>平成8年 「Jリーグ百年構想」をキーワードとした広報活動開始</li> <li>平成8年5月 2002FIFAワールドカップ日韓共催決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。国立競技場に59,626人が来場した。この日のチケットは抽選制で、チケットには購入者の名前が刻印され、記念となるように考案された。</li> <li>公認グッズ店が爆発的人気・チアホーンによる騒音問題が表面化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年 アトランタオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：グループリーグ敗退)</li> </ul>
平成9年度～平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年 FIFAワールドカップフランス大会に日本初出場</li> <li>平成11年 J1、J2の1・2部制開始</li> <li>平成12年 FIFAクラブ世界選手権2000(第1回大会)開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成9年 日本初のサッカーナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」が福島にオープン</li> <li>平成11年10月 横浜マリノスと横浜フリューゲルスが合併。他のクラブでも出資企業が撤退するなど、メディアではクラブの経営危機が喧伝された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年 FIFAワールドカップフランス大会(グループリーグ敗退)</li> <li>平成12年 シドニーオリンピック(男子：ベスト8)</li> </ul>
平成13年度～平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年 toto(スポーツ振興投票)の導入開始</li> <li>平成14年 FIFAワールドカップを日本と韓国が共同開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年 選手育成プロジェクトとして「Jリーグアカデミー」、選手のセカンドキャリアの支援として「Jリーグキャリアサポートセンター」を始める。</li> <li>平成15年 「Jリーグ百年構想」の一環で、芝生をモチーフにした「Mr.ピッチ」によるプロモーションを展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成14年 FIFAワールドカップ日韓大会(ベスト16)</li> <li>平成16年 アテネオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：ベスト8)</li> </ul>
平成17年度～平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年 J1が2ステージ制から1ステージ制へ</li> <li>平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会に日本代表出場</li> <li>平成19年 FIFAクラブワールドカップで浦和レッズ3位</li> <li>平成20年 FIFAクラブワールドカップでガンバ大阪3位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年 エリート育成機関「JFAアカデミー福島」開校</li> <li>平成19年 イレブンミリオンプロジェクト開始。「2010年シーズンに年間1100万人の観衆を集めよう」という目標を掲げ、キャンペーンを展開。※結果、総入場者は864万5762人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会(グループリーグ敗退)</li> <li>平成20年 北京オリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：4位)</li> </ul>
平成21年度～平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカに日本代表出場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年3月 Jリーグ公式試合通算入場者数が1億人を突破</li> <li>平成24年 <ul style="list-style-type: none"> <li>Jリーグクラブライセンス制度施行</li> <li>公益社団法人日本プロサッカーリーグに移行</li> <li>Jリーグ20周年特別企画 開幕戦をネット放送</li> <li>J1昇格プレーオフ、J2・JFL入替戦制度</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカ大会(ベスト16)</li> <li>平成23年 FIFA女子ワールドカップドイツ大会(優勝)</li> <li>平成24年 ロンドンオリンピック(男子：4位/女子：銀メダル)</li> </ul>

※年表中のチーム名に関しては、当時の名称にて表記しています。



# 調査対象スタジアム

(2002 FIFAワールドカップ開催スタジアム)

## 掲載順

- 第1回……大分銀行ドーム  
(Vol.603掲載) ノエビアスタジアム神戸
- 第2回……ヤンマースタジアム長居  
(今回掲載) エコパスタジアム
- 第3回……デンカビッグスワンススタジアム  
日産スタジアム
- 第4回……埼玉スタジアム2002  
茨城県立カシマサッカースタジアム
- 第5回……ひとめぼれスタジアム宮城  
札幌ドーム

### デンカビッグスワンススタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：42,300名
- 所 有 者：新潟県
- グループL 6/1 アイルランド×カメルーン (1-1)
- グループL 6/3 クロアチア×メキシコ (0-1)
- 決勝T 6/15 デンマーク×イングランド (0-3)

### ヤンマースタジアム長居

- 開 場：昭和39年 ●収容人員：47,816名
- 所 有 者：大阪市
- グループL 6/12 ナイジェリア×イングランド (0-0)
- グループL 6/14 チュニジア×日本 (0-2)
- 決勝T 6/22 セネガル×トルコ (0-1)

### ノエビアスタジアム神戸

- 開 場：平成13年 ●収容人員：30,132名
- 所 有 者：神戸市
- グループL 6/5 ロシア×チュニジア (2-0)
- グループL 6/7 スウェーデン×ナイジェリア (2-1)
- 決勝T 6/17 ブラジル×ベルギー (2-0)

### 大分銀行ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：40,000名
- 所 有 者：大分県
- グループL 6/10 チュニジア×ベルギー (1-1)
- グループL 6/13 メキシコ×イタリア (1-1)
- 決勝T 6/16 スウェーデン×セネガル (1-2)

### エコパスタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：50,889名
- 所 有 者：静岡県
- グループL 6/11 カメルーン×ドイツ (0-2)
- グループL 6/14 ベルギー×ロシア (3-2)
- 決勝T 6/21 イングランド×ブラジル (1-2)

### 日産スタジアム

- 開 場：平成10年 ●収容人員：72,327名
- 所 有 者：横浜市
- グループL 6/9 日本×ロシア (1-0)
- グループL 6/11 サウジアラビア×アイルランド (0-3)
- グループL 6/13 エクアドル×クロアチア (1-0)
- 決勝T 6/30 ブラジル×ドイツ (2-0)

### 札幌ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：53,738名
- 所 有 者：札幌市
- グループL 6/1 ドイツ×サウジアラビア (8-0)
- グループL 6/3 イタリア×エクアドル (2-0)
- グループL 6/7 アルゼンチン×イングランド (0-1)

### ひとめぼれスタジアム宮城

- 開 場：平成12年 ●収容人員：49,000名
- 所 有 者：宮城県
- グループL 6/9 メキシコ×エクアドル (2-1)
- グループL 6/12 スウェーデン×アルゼンチン (1-1)
- 決勝T 6/18 日本×トルコ (0-1)

### 茨城県立カシマサッカースタジアム

- 開 場：平成5年 ●収容人員：40,728名
- 所 有 者：茨城県
- グループL 6/2 アルゼンチン×ナイジェリア (1-0)
- グループL 6/5 ドイツ×アイルランド (1-1)
- グループL 6/8 イタリア×クロアチア (1-2)

### 埼玉スタジアム2002

- 開 場：平成13年 ●収容人員：63,700名
- 所 有 者：埼玉県
- グループL 6/2 イングランド×スウェーデン (1-1)
- グループL 6/4 日本×ベルギー (2-2)
- グループL 6/6 カメルーン×サウジアラビア (1-0)
- 決勝T 6/26 ブラジル×トルコ (1-0)

- 今回掲載スタジアム
- 次回掲載スタジアム

# ヤンマースタジアム長居 (長居陸上競技場)

所有者：大阪市

管理運営者：長居公園スポーツみどり振興グループ

(一財)大阪スポーツみどり財団、美津濃(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)

所在地：〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1

## ●特徴

都市型でかつ緑豊かな長居公園内にある、地上5階建て・約5万人収容のビッグスタジアム。飛び立つ鳥の翼をイメージした屋根がシンボリックな開放感あふれるスポーツステージとなっている。

平成11年セレッソ大阪のJ1昇格に伴いホームスタジアムとなる。平成22年には陸上トラックのない長居球技場(ネーミングライツによりキンチョウスタジアム)をホームスタジアムとし、長居陸上競技場との併用が始まる。ワールドカップ開催会場の中で、最も歴史ある競技場である。

## ●競技場概要

開場：昭和39年 建設費：401億円

概要：日本陸上競技連盟第1種、IAAF国際陸上競技連盟クラス1

収容人員：47,816名 芝生面積：107m×71m

芝生：ティフトン419、ペレニアルライグラス

付帯設備：トレーニングセンター、スポーツ総合情報センター、ユースホステル(100名収容)等

## ●開催実績

- ・なみはや国体(平成9年)
- ・ヤマザキ国際グランプリ陸上大阪大会(平成9年～平成22年)
- ・東アジア競技大会(平成13年)
- ・2002FIFAワールドカップ(平成14年)
- グループリーグ：ナイジェリアVSイングランド(0-0)
- グループリーグ：チュニジアVS日本(0-2)
- 決勝トーナメント：セネガルVSトルコ(0-1)
- ・世界陸上選手権 大阪大会(平成19年)
- ・スルガ銀行チャンピオンシップ(平成20年)

## ●コンサート実施回数……11回(平成25年度まで)

- ・Mr.Children(平成19、23年)
- ・a-nation(平成21～25年)
- ・EXILE(平成22年)
- ・コブクロ(平成22年)
- ・GLAY(平成24年)
- ・関ジャニ∞(平成24年)



## 1 建設からFIFAワールドカップ開催までの歴史

～こけら落としは東京五輪のサッカー。長い歴史の中に刻まれた2002FIFAワールドカップ～

現・長居公園は、昭和3年に大阪都市計画の中で野球場や陸上競技場を含む『臨南寺公園』として整備計画が決定した。しかし、昭和9年に『紀元二千六百年記念行事(※昭和15年に行われた神武天皇即位2,600年を祝った一連の行事)』の一環として計画規模を拡大し名称も長居公園と改め、総合公園化をめざして工事が始まった。しかし日中戦争、太平洋戦争が勃発したことにより工事は中止され、用地は防空陣地や農地に転用された。

終戦後は大阪競馬場、大阪中央競輪場として利用していたが、近代的なスポーツ会場がない大阪市の実情から戦前の計画を復活させることとなり、競馬・競輪場を含む総合運動公園計画が策定された。しかし、都市部の過密化が進むにつれレクリエーション・運動施設の不足が痛感されるようになったことから抜本的に計画を見直し、昭和34年に運動公園を含む総合公園の計画が完成した。

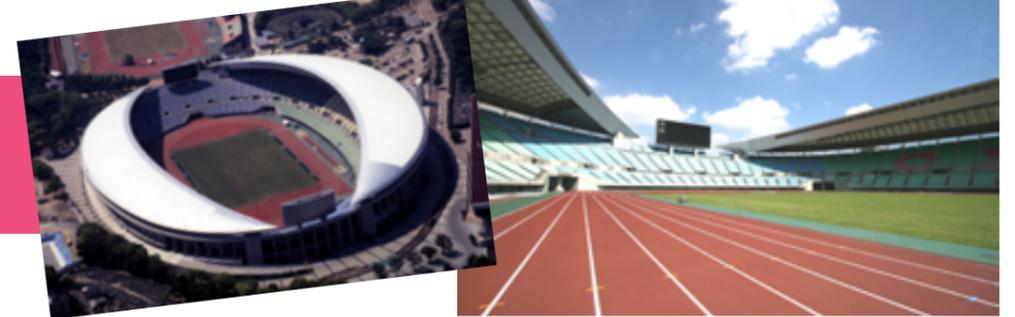
こうして長居陸上競技場は、スポーツを通じた国際交流拠点となるべく昭和39年に完成し(座席数23,000席)、こけら落としは東京オリンピックサッカー競技の5位決定

戦となった。昭和47年からは全国高等学校サッカー選手権の会場として利用された。昭和51年度(第55回)から決勝会場が関東に移ったが、それまで高校サッカーは関西を中心に開催されていた。

平成4年6月、スポーツ振興を重要な施策として位置付け、『スポーツパラダイス大阪』の実現を目指していた大阪市は、2002FIFAワールドカップ(平成14年)開催地としていち早く立候補を表明、市をあげて招致活動を展開していった。

平成4年から5年にわたり、なみはや国体(平成9年)に向け大規模改修工事を行った。国体施設の基準は30,000席以上とされていたが、40,000席以上必要であるという先催府県の意見と大阪市の集客数を踏まえ50,000席とした。都市公園のため建築面積や高さなど規制が多く、また途中、ワールドカップ会場として決定したため、スタンド屋根の追加や大会管理運営設備や貴賓室等、大幅な設計の見直しにより苦労を重ねることとなった。

ワールドカップに向けてさまざまな準備を進めたが、都



市型のスタジアムであるため、周辺住民や交通機関利用者へ理解を得るため歓迎ムードの醸成を図ることからスタートした。開催500日前、1年前など節目ごとに気運醸成のために「大阪サッカーフェスタ」と称したカウントダウンイベントを開催し、区民まつりなど地域イベントにも積極的に参加した。ボランティアの登録数は665名で、ターミナルでの案内サービスや会場周辺の案内などの役割を担い、活動参加は延べ2,394名となった。

施設周辺の商店街ではフリーガンによる不法・暴力行為が懸念されたため、事前に町会商店会などの会合を通じ、警察との連携による観客誘導・自主警備体制について地元への説明を重ねた。各商店では「フリーガン対策保険」加入や、試合当日の閉店を検討するなど各自で対策を行っ

たが、結果としては大きな問題もなく無事に終了した。

試合は、日本代表戦を含むグループリーグ2試合と準々決勝の1試合が開催された。チュニジア対日本戦では、早くから大勢の日本サポーターがスタジアムに押し寄せ、結果2-0の完封で勝利しグループ1位で突破した。試合終了後は決勝トーナメント進出を喜ぶニッポンコールが鳴り止まなかった。

ワールドカップ開催後も、さまざまな大規模イベントが実施されている。平成19年には第11回IAAF世界陸上選手権大阪大会が開催された。201の国と地域から約2,000名のアスリートが参加し、9日間にわたりその力と技を競った。世界新記録は出なかったものの、男子200m、女子3,000m障害で大会新記録をマークし歴史に名を刻んだ。

## 2 FIFAワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

～なみはや国体(平成9年)、2002FIFAワールドカップ(平成14年)と段階的に行われてきた大規模改修～

### (1) 観戦・施設設備

#### a なみはや国体に向けての建て替え(平成4年～平成8年)

- 日本で初めてスタンド面積の3分の2を覆う屋根を設置
- 一般座席47,264席、障がい者席255席、立見席589席=48,108席
- 車いす席の設置、聴視覚障がい者に対する誘導放送設備も整備
- 大型映像設備(31.28×13.20m)、電光表示盤設備(25.8×9.92m)、スタジアム音響設備(音圧レベル90dB)、赤外線火災感知設備(赤外線カメラ7台)、フィールド内情報用配管配線設備、ナイター照明設備(1,500ルクス以上)、受変電設備(22KV3回線、スポーツネットワーク方式)を整えた。
- 貴賓室、警備室、大会運営室、会議室、更衣室、救護室、放送室、写判室、音響操作室、大型映像操作室、その他諸室を整備
- 駐車場、入場門として、メイン側に南北ゲート、ゴール裏側付近より南北スロープを整備
- それまでは自販機設置のみだったため、飲食売店を新設

#### b ワールドカップに向けての改修(平成13年)

- 全観客席を背もたれ式椅子に改修、VIP席と記者席の増設、バックスタンド下に仮設観客席1,000席増設、車椅子席スペースの増設
- 電気設備、機械設備、情報通信設備工事、各諸室、仮設駐車場整備

- セクター分けのフェンスを設置し、観客席・コンコースを4分割

- 遊歩道を広げるなど観客動線整備工事

#### c ワールドカップ開催後の改修(平成14年)

- 増設したVIP席、記者席の原状復旧工事、場内舗装部等
- 仮設照明設置、仮設電気設備工事、電気、機械、情報通信設備、諸室、仮設駐車場等、仮設部分については全て原状復帰をした。

#### d 世界陸上に向けての改修(平成18年)

- 観客席改修工事、記者席塗装工事、トイレ改修衛生設備工事
- IAAFクラス1トラック・フィールド改修工事
- 設置10年を経過し機能的な低下が見られたため、大型映像設備、電光表示設備、音響設備、電気設備改修工事を行った。

#### e その後

- モニター、通信インターフェイス変換装置、操作卓等、中央監視設備改修(平成23年)

### (2) 省エネ・エコロジー

- 各利用団体の皆さまにはゴミの分別に協力をいただき、リサイクルできる資源ごみについてはリサイクルするように努めている。

- ペットボトルのキャップの回収箱を設け、エコキャップ運動に取り組んでいる。

- 事務所等の改修が可能な範囲において室内灯のLED化



に努めている。

### (3) 芝・トラック

- ワールドカップに向けて、芝を縦4m、横3.5m分をパレット式で拡張し106×69.5mから110×73mにした。(平成13年)
- トラック改修、ダッグアウト舗装改修工事 (平成13年)
- ワールドカップのために拡張したフィールド芝と、トラックの復旧 (平成14年)
- 陸連のルールが変更になったことにより、芝生面積を縦1.5m×横1m拡張し、107m×71mとした。(平成16年)

- 世界陸上開催のため、トラックの上部弾性層の表面を切削しウレタン材を補充するオーバーレイ工法で改修。表面の舗装材は遮熱トップコートで表面温度の低下を図った。(平成19年)  
※IAAF主催の場合、『IAAF全天候型舗装材の品質基準クラス1』に適合することが義務づけられているため。
- 大改修から11年が経過し、ティフトンの枝変わりが生じたり、雑草種の蓄積や土壌変化等の問題も出てきたため、2～3月末までの2ヶ月間かけて全面張替を実施した。張替後は養生シートをかけ育成を図り、6月中旬から利用を開始した。(平成19年)

## 3 ソフト面の変化・チームとの関係性

～平成11年よりセレッソ大阪のホームスタジアムに。平成22年からは長居球技場も併用～

セレッソ大阪が平成7年にJリーグへ加盟した当初は、長居第2陸上競技場がホームスタジアムであった。これは、長居が平成9年のなみはや国体開催に伴う改修工事を行ったための措置だったが、長居第2ではJリーグの開催基準に施設が適合しないため、平成6年夏季からスタンドや照明塔、電光掲示板設置などの改修工事を施し、平成7年の開幕を迎えた。平成11年セレッソ大阪のJ1昇格に伴い、長居陸上競技場がホームスタジアムとなる。

平成20年10月に開催されたJリーグベガルタ仙台戦において、バックスタンドの陸上トラック上に仮設席「芝かぶり席」を導入。200名募集のところ6,200名と予想を大幅に上回る応募があったため、パートナー会社の意向もあり、11月のベルマーレ戦、12月の愛媛FC戦でも追加で設置された。平成20年は一部のクラブが、平成21年シーズンからは多くのクラブが導入した。陸上トラックの上に設置されることから飲食の禁止、Jリーグの統一規定により、ピッチレベルでの撮影禁止のほかバックスタンドのフィールドにはトイレがないデメリットもあった。だが、キンチョウスタジアムが本拠地となってからはキンチョウスタジアムに芝かぶり席が常設され、正式な席種として販売される

ことになった。

平成22年に、大阪市とクラブが費用を負担して長居球技場を改修し、ネーミングライツにより『キンチョウスタジアム』となり、長居陸上競技場との併用が始まった。

セレッソ大阪は、多くの方にスタジアムでの観戦の機会を提供するために、東住吉区をはじめ隣接する各区役所、大阪市営地下鉄や私鉄電鉄会社、近隣商業施設との連携を図り、優待価格で入場できる日を設けている。試合当日、指定された区の在住がわかるものや提携した交通機関を利用していることがわかる乗車券を提示すると優待価格でチケットを購入できるというものである。

ワールドカップ時のボランティアスタッフについては、開催後も活動してもらえるよう『大阪市スポーツボランティア』として登録をもらった。世界陸上大阪大会、大阪国際女子マラソンなどの大規模なスポーツイベントやセレッソ大阪のホームゲーム、スポーツ教室や小規模なイベントまでさまざまな場面で活躍している。毎年登録更新及び新規申し込みを行っており平成25年5月現在では290名ほどである。

## 4 今後の展望と課題

平成8年6月に建替え再オープンした長居陸上競技場は、平成14年の2002FIFAワールドカップや平成19年の世界陸上競技選手権大会の開催にあわせて座席やフィールドの改修を行ってきた。建替えから17年が経過し一部に経年劣化が見られ、また、厳しい財政状況ではあるもの

の、今後とも、できる限りハード面ソフト面の向上に取り組み、我が国有数の施設として、競技大会、プロスポーツ、コンサート等のイベント開催を通じ、スポーツの推進、文化の振興に資するなど、その集客力を発揮して大阪の成長の一翼を担い続けていく。

スポーツ施設調査「2002 FIFAワールドカップ開催スタジアム10年の変遷」

# エコパスタジアム (静岡県小笠山総合運動公園スタジアム)

所有者：静岡県

管理運営者：静岡県サッカー協会グループ・エコパハウス

所在地：〒473-0031

静岡県袋井市愛野 2300-1



### ●特徴

小笠山総合運動公園エコパは、“健康とスポーツと自然”をテーマにつくられた広さ270ヘクタールのスポーツパークである。園内には、1万人収容のエコパアリーナ、より使いやすいサブアリーナがあり、ウォーキングや森林浴など、四季折々の自然とのふれあいを楽しめる。その中の中心ともいえる5万人収容の県最大のエコパスタジアムは、自然との共生を設計コンセプトとし、山並みをイメージした優美なデザインとなっている。スタジアムのこけら落しはJ1の「静岡ダービー」清水エスパルスvsジュビロ磐田戦。この試合ではスタジアム最多観客動員を記録した。

### ●競技場概要

開場：平成13年 建設費：292億円  
収容人員：50,889名  
(固定席：45,653名・可動席：5,236名)

芝生面積：107m×72m

芝生：パミュダグラス (ティフトン419) + WOS (ペレニアルライグラス)

園内施設：補助競技場、投てき練習場、エコパアリーナ、トレーニングルーム、サブアリーナ、人工芝グラウンド、多目的運動広場、芝生広場1.2.3、グラウンド1.2.3、駐車場  
付帯設備：エコパスポーツミュージアム、研修室、会議室

### ●開催実績

- 2002FIFAワールドカップ (平成14年)  
グループリーグ：カメルーンVSドイツ (0-2)  
グループリーグ：ベルギーVSロシア (3-2)  
決勝トーナメント：イングランドVSブラジル (1-2)
- NEW! わかふじ国体 (平成15年)
- キリンチャレンジカップ (平成16、18、24年)
- 天皇杯・準決勝 (平成17年～)
- ねんりんピック静岡 (平成18年)
- Jリーグオールスター (平成19年)
- 静岡国際陸上 (平成20年～)
- スルガ銀行チャンピオンシップ (平成23年)

### ●コンサート実施回数……4回 (平成25年度まで)

- Mr.Children (平成13年)
- SMAP (平成14年)
- B'z (平成14年)
- EXILE (平成22年)

## 1 建設からFIFAワールドカップ開催までの歴史

～“健康とスポーツと自然”をテーマにつくられた広大なスポーツパーク～

平成4年に基本計画策定、建設地が決定され日本招致委員会へ出願書を提出、平成5年環境影響評価、基本設計、平成6年都市計画決定及び事業認可をへて、平成8年に開催地として選定された。平成10年に着工し、平成13年5月にエコパスタジアムが開場した。愛称「エコパ (ECOPA)」は、小笠山に近いことから「山彦」を意味する「Echo」や環境を意味する「エコロジー」と、

友達・仲間、地域・自然との共生を図るという意味合いを込めて「友」を意味する「Pa」や公園を意味する「Park」からつけられた。誰もが安全に利用できる快適空間を目指し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れている。車イス席は、観客導線上に設置されているが、磁気ルーブ席を設置する等、歩行者と車両を明確に分離されるよう配慮された。



こけら落としは平成13年のJ1の清水vs磐田で、この試合の観衆52,959名はスタジアム最多観客動員となっている（開場当時の座席数は51,349席でワールドカップ開催後に50,889席に改修された）。

平成13年のスタジアム完成時にボランティア団体が組織されたが、ワールドカップでは1,200名のボランティアスタッフがさまざまな業務で大会をサポートした。ワールドカップ終了後は「エコピスタ」を結成し、エコパスタジアム開催のJリーグの試合には今でも150名の規模で活動している。その中でも約70名が「エコパサポーターズ」として「イベント補助」「大型映像操作」「施設見学案内」「環境美化」の各チームとなって活動している。

開催にむけての気運の醸成を図るため、地域物産展、音楽イベントやパブリックビューイングなどさまざまな

取り組みを展開してきたが、その中で最も大きなものは「2002FIFAワールドカップ静岡開催記念静岡世界少年(U-12)サッカー大会」で、第1回を平成12年8月に、第2回を平成13年8月に実施した。第2回大会では海外6チーム、静岡県内6チームが参加しエコパスタジアムで決勝戦など3日間の熱い戦いが繰り広げられた。

また、平成13年4月にエコパスタジアムの最寄駅となる愛野駅が開業したが、駅からスタジアムへの道のりには、サッカーをモチーフにしたオブジェやモニュメントが歩道沿いに設置され、道行く人を楽しませる取り組みが袋井市を中心になって行われた。

ワールドカップでは安全で安心な大会とするべく、混雑する試合終了時の観客輸送では警察やJRなど運営関係者と様々な協議が重ねられた。特に混雑が予想された午後8時30分キックオフの試合では、JR掛川駅への無料シャトルバスの運行や30年ぶりとなる新幹線深夜運行を行うなどして対処した。

エコパスタジアムではグループリーグ2試合と準々決勝の1試合が開催されたが、徹底した警備体制と万全の医事・防災対策を取ったため、懸念されていた一部の過激なファン層による違法事案などは無く、無事大会を成功させることができた。

## 2 FIFAワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

～ワールドカップ開催後、平成15年わかふじ国体・第3回全国障がい者スポーツ大会に向けて改修が行われた～

### (1) 観戦・設備環境

- スタンド席老朽化に伴い、400席交換（平成22年）
- 地デジチューナー導入、モニター交換（平成22年）
- 選手更衣室及び貴賓室周りのトイレを暖房温水洗浄便座に交換（平成22年）

### (2) 省エネ・エコロジー対策

- 雨水貯水槽の水を散水や一部のトイレ用水に活用している。

### (3) 芝・トラック

- 国体開催対応のため芝生縮小工事（110m×75m →

106m×72m）（平成14年）

- FIFA国際試合のため芝生拡張工事（106m×72m → 107m×72m）（平成15年）
- 1～2レーンのウレタン切断オーバーレイ（平成17年）
- 3～9レーンのウレタン切断オーバーレイ（平成22年）
- 温暖化等の影響により芝生全面張替（寒地芝→暖地芝）（平成26年）

### (4) その他

- 南第2駐車場の増設（平成16年）
- 平成18年度より指定管理制度導入
- 補助体育館(サブアリーナ)完成に伴い、西第5駐車場を増設（平成21年）

## 3 ソフト面の変化・チームとの関係性

～サッカー王国静岡、地域との取り組み～

Jリーグに所属する選手のうち、ジュニア世代からユース世代を通して静岡県でプレーしたことがある選手は数多く、全国一を誇っている。市民レベルのサッカーも盛んで幅広い世代が各地域のクラブに所属し、毎週のように試合が行われている。少年時代から、一貫した選手の指導システム等が構築されている。「サッカー王国・静岡」と呼ばれるのはこうした背景がある。

静岡県下のJリーグクラブでは、ジュビロ磐田は磐田市を、清水エスパルスは静岡市をそれぞれホームタウンとしており、エコパスタジアムをホームスタジアムとするクラブはなく、リーグ戦では、ここ6年ほどは、年間3～5試合という実績である。

『すべての人にひらかれた公園、みんながつかえる、みんなのエコパへ』をテーマに、平成18年から静岡県サッカー協会グループが指定管理者となり、多岐に渡る自主事業を展開している。スタジアム見学ツアー、ウェディング、スポーツアカデミー、B級グルメスタジアム、エコパ自然塾、スポーツクリニック、フリーマーケット、ほっとコンサート、スポーツシンポジウム等で、なかでも開催5回を数えるB級グルメスタジアムは「日本一の食材の王国」ともいわれる静岡県ならではのグルメを通して、観光振興を図っており年々注目度を増している。市民レベルのサッカーもたいへん盛んで、子供から壮

年まで幅広い年代の人たちが各地域のサッカーチームに所属し、毎週のように試合が行われている。

また、県内では将来世界に通用するための育成基盤が構築されており、全国大会での数々の優勝、好成績をおさめているチームは多い。清水エスパルスとジュビロ磐田の2チームを含め、Jリーグに在籍する選手のうち、ジュニア年代からユース世代を通して、静岡県でプレーしたことがある選手は数多い。

幼稚園から小学校・中学校・高校・大学・シニアと、全ての世代ごとでサッカーの県大会が行われているが、決勝戦は全てエコパスタジアムで行われており、サッカー王国静岡であることを現す結果ともいえる。

- 地元地域のサッカー協会(袋井、掛川、磐田)と連携し、小・中・高校年代の大会やトレセンに質の高い練習会場(人工芝ピッチ)を積極的に提供し、若い世代のレベルアップに貢献している。
- 年に数日だが、「プライベート・サッカー」と称してスタジアムを一般開放し、エコパスタジアムでのサッカーを提供している。
- 駐車場(公園内に点在して約4,400台収容可能)に関する使い勝手の良さを各チームの運営サイドにアピールしているが、年間試合数の増加につながる等効果が上がっているわけではない。

## 4 今後の展望と課題

～エコパスタジアムの未来～

- 平成13年の開場から早10余年が経過し、スタジアム本体とともに各設備の老朽化とその対策が最大の課題といえるだろう。各競技用の設備や備品についても同様のことがいえる。
- 県内にJ1所属1チーム、J2所属1チーム、J3所属1チームがありながら、エコパスタジアムをホームスタジアムとするチームはないのが現状である。そのため、年間のJリーグ関連の試合数が確保されておらず、また、各チームが自スタジアム使用を進めているため、年々開催試合数が減少している。

- 「東海」地震等巨大地震発生の可能性が叫ばれるなかで、災害における防災拠点としての役割としては、スタジアムは緊急物資の集積基地、アリーナは避難者用施設になる。公園内では自衛隊が各種訓練を行い、災害など有事に備える。
- 2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関しては、県全体を挙げて、プレ大会や参加各国の直前合宿等の誘致に努めている。

## 代々木第一体育館

コンサート	SHINee WORLD 2014~I'm Your Boy~	(12/2-4)
コンサート	namie amuro LIVE STYLE 2014	(12/6-7,11-12)
チャリティー	第26回 全日本学生選手権大会	(12/13-14)
コンサート	アメリカン・エクスプレス 百貨店ギフトカード presents MUSIC FOR ALL, ALL FOR ONE 2014	(12/20-21)
コンサート	namie amuro LIVE STYLE 2014	(12/22-23)
コンサート	ayumi hamasaki COUNTDOWN LIVE 2014-2015 Cirque de Minuit ~真夜中のサーカス~	(12/29-31)
バスケット	東日本大震災復興支援 第90回天皇杯・第81回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会	(1/3,4,10-12)
アイスショー	STARS ON ICE JAPAN TOUR 2015	(1/17-18)
コンサート	ニッポン放送 LIVE EXPO TOKYO 2015 ミュウコミ+プレゼンツ アニメ紅白歌合戦 Vol.4	(1/25)
コンサート	Encore!! 3D Tour [D-LITE DLive D'slove]	(1/31,2/1)
コンサート	でんでんぱーりーナイトdeぱーりー	(2/10-11)
チャリティー	第13回 全日本クラブチーム選手権大会	(2/14)
チャリティー	第12回 子ども大会	(2/14)
チャリティー	第25回 全日本高等学校選手権大会	(2/14-15)
チャリティー	第1回 全日本中学校選手権大会	(2/15)
展示会	rooms30	(2/17-19)

## 代々木第二体育館

バドミントン	平成26年度 第68回 全日本総合バドミントン選手権大会	(12/2-7)
フラダンス	第2回 Kamehameha Nui日本予選大会 東京	(12/9)
新体操	日本体育大学体操部第46回演技発表会	(12/14)
その他	TOKYO FM夢の第九コンサート2014	(12/15)
レスリング	「天皇杯」平成26年度全日本レスリング選手権大会	(12/21-23)
バドミントン	バドミントン日本リーグ2014	(12/27-28)
バスケット	東日本大震災復興支援 第90回天皇杯・第81回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会	(1/1-4)
ダンスイベント	Dance Drill Winter Cup 2015	(1/10)
太極拳	第15回東京都武術太極拳交流大会	(1/12)
格闘技	K-1 WORLD GP 2015	(1/18)
バスケット	NBL2014-2015	(1/21)
バスケット	NBDL2014-2015	(1/24-25)
バスケット	第16回Wリーグ	(1/30-31)
バスケット	NBL2014-2015	(2/7-8)
バスケット	第16回Wリーグ	(2/13)
バスケット	NBL2014-2015	(2/14-15)
卓球	会長杯・第20回ジャパントップ12卓球大会	(2/28)

## 秩父宮ラグビー場

ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ2014-2015 2nd ステージ サントリー vs 東芝, パナソニック vs 神戸製鋼 (12/13) リコー vs NTTドコモ, NTTコム vs パナソニック (12/20) NEC vs NTTドコモ, クボタ vs リコー (12/28) 東芝 vs ヤマハ発動機, NTTコム vs サントリー (1/3) 東芝 vs NTTコム, キヤノン vs 神戸製鋼 (1/11) プレーオフ 決勝 (2/1)
ラグビー	第51回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 1回戦 (12/14) 2回戦 (12/21) 3回戦 (12/27) 準決勝 (1/2)
ラグビー	関東大学対抗戦A 明治大学 vs 早稲田大学 (12/7)
ラグビー	ジャパンラグビートップイーストリーグ ディヴィジョン1 釜石シーウェイブス vs 三菱重工相模原 (12/6)
ラグビー	トップチャレンジシリーズ トップチャレンジ2 イースト2位 vs キュウシュウ2位 (12/23) トップチャレンジ1 ウェスト1位 vs トップチャレンジ2 1位 (1/12) イースト1位 vs キュウシュウ1位 (1/12)
ラグビー	第36回関東大学ジュニア選手権 決勝 (12/6) 第33回東日本中学校ラグビーフットボール大会 3位決定戦/決勝 (12/23)

## 味の素フィールド西が丘

サッカー	国際女子サッカークラブ選手権2014 準決勝 (12/3) 3位決定戦、決勝戦 (12/6)
サッカー	第63回全日本大学サッカー選手権大会 2回戦 (12/14) 準決勝 (12/18) 決勝 (12/21)
サッカー	高円宮杯U-15 第26回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 決勝 (12/27)
サッカー	第36回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 準決勝 (12/28)
サッカー	第93回全国高校サッカー選手権大会 1回戦 (12/31) 2回戦 (1/2)
サッカー	第48回北区少年少女サッカー大会 決勝 (1/11)
サッカー	第9回ロイヤル(O-70)サッカー東西対抗戦 (1/12)
サッカー	第23回全日本大学女子サッカー選手権大会 準決勝 (1/16) 決勝 (1/18)
サッカー	第16回東京都クラブユースサッカーU-17選手権大会 (2/8)
サッカー	第22回東京都クラブユースサッカーU-14選手権大会 (2/11)

スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。  
<http://www.jpnsport.go.jp>

### 国立競技場ヒストリーブック

## 『SAYONARA国立競技場 56年の軌跡 1958-2014』

国立競技場を形づくるハード面にスポットを当て、関わりのある人物や競技を通して、それにまつわる物語やエピソード、歴史的事象を盛り込みながら、国立競技場の役割や意義をひも解いています。

国立競技場で躍動した伝説のアスリート、刻まれた偉大な記録、そして記憶に残る舞台の数々。この一冊に、あの日の国立競技場が息づいています。

〔販売概要〕

- ・販売場所：全国の書店、インターネット通販 (amazonほか) にて販売
- ・価格：3,000円 (税抜)
- ・ページ数：256ページ (B5サイズ)

10/10(金)より  
発売中!



国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171) 秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)  
味の素フィールド西が丘 (国立スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

### 〔編集後記〕

2014年も残りわずかとなりました。今年を振り返ってみると、5月末に国立競技場のお別れのイベント「SAYONARA 国立競技場 FINAL "FOR THE FUTURE"」が盛大に行われ、国立競技場内の備品の譲渡、芸術作品・記念作品の移設作業など、スポーツの聖地として多くの方に親しまれてきた国立競技場のレガシーを未来に引き継ぐ多くのシーンが思い出されます。来年も皆様に紙面をとおして様々な場面をお伝えしたいと思いますので、引き続きご愛読くださいますようお願いいたします。(S)

## 国立競技場 第604号

2014年12月1日発行

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒107-0061 東京都港区北青山 2-8-35

tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス

リサイクル適性  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。